

令和 3 年度

学校図書館の活用にかかる

実践事例集

岩手県学校図書館協議会

令和3年度実践事例集の発刊にあたって

岩手県学校図書館協議会 会長 中村 雅彦

この度、本協議会の研究活動振興事業として「学校図書館の活用にかかる実践事例集」を発刊することができました。ご協力いただいた皆様のご尽力に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

この実践事例集には、各地区SLAより小学校1事例・中学校1事例、合計34校の実践をお寄せいただきました。学校図書館の活用につきましては、各学校で大切に取組まれてはいるものの、互いに実践を交流したり協議したりできる機会は多くありません。この実践事例集を手掛かりに、「読書指導」「情報活用」「学校図書館運営」の各領域から、自校の学校図書館の改善が図られ、児童生徒にとって親しみやすく毎日通いたくなる学校図書館、読書意欲を高め、学びに役立つ学校図書館づくりのヒントを得ていただければ幸いです。

学習指導要領の総則には「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の主体的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」と示されております。これを受けまして、今後も本協議会では、読書活動・研究活動充実のための取組、全国SLAとの連携による調査・要請活動等を通して、学校図書館活用の充実をめざしてまいります。

関係各位のご協力に改めて感謝を申し上げ、実践事例集発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和4年3月吉日

目 次

◆ 小学校 ◆

- 「児童に親しまれる図書館運営と読書指導を目指して」
盛岡地区SLA 盛岡市立向中野小学校…1
- 「読書指導の充実を目指して」
岩手地区SLA 岩手町立一方井小学校…2
- 「子どもの豊かな読書習慣の形成をめざして」
八幡平地区SLA 八幡平市立寄木小学校…3
- 「読書活動の充実を目指して」
雫石地区SLA 雫石町立七ツ森小学校…4
- 「豊かな読書活動の充実を目指して」
紫波地区SLA 紫波町立佐比内小学校…5
- 「児童の積極的な読書活動の展開を目指した図書館運営」
花巻地区SLA 花巻市立石鳥谷小学校…6
- 「読書の習慣化を図る学校図書館教育の工夫」
遠野地区SLA 遠野市立遠野小学校…7
- 「子どもたちの読書意欲向上を目指して」
北上和賀地区SLA 北上市立笠松小学校…8
- 「町立図書館との連携による、読書への関心・意欲を高めるための図書館運営」
胆江地区SLA 金ヶ崎町立金ヶ崎小学校…9
- 「心豊かな児童を育成する読書活動の充実」
一関地区SLA 一関市立猿沢小学校…10
- 「本に親しみ、進んで読書をする児童を育てるために」
陸前高田地区SLA 陸前高田市立矢作小学校…11
- 「図書委員会を中心とした読書活動の推進」
大船渡地区SLA 大船渡市立盛小学校…12
- 「子どもたちの読書意欲を高め持続させる取り組みについて」(読書指導領域)
釜石・大槌地区SLA 釜石市立栗林小学校…14
- 「子供たちが主体的に本に親しめるように ～読書意欲を高める取り組みを通じて～」
宮古地区SLA 宮古市立磯鶏小学校…15
- 「読書に親しみ、進んで読書をする習慣を身に付けさせる取組」
岩泉地区SLA 岩泉町立岩泉小学校…16
- 「読書習慣を育てる図書館教育の工夫」
田野畑地区SLA 田野畑村立田野畑小学校…17
- 「読書活動の充実を目指して」
久慈地区SLA 洋野町立角浜小学校…18
- 「読書に親しむ児童の育成を目指して」
二戸地区SLA 一戸町立一戸南小学校…19

◆ 中学校 ◆

「図書館運営について」

盛岡地区SLA 盛岡市立玉山中学校…20

「新しい本を紹介し、生徒に興味・関心をもたせる読書活動の推進について」

岩手地区SLA 岩手町立一方井中学校…21

「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)

八幡平地区SLA 八幡平市立西根中学校…22

「読書活動の充実を目指して」

紫波地区SLA 紫波町立紫波第二中学校…23

「学校図書館の環境整備を通して」

花巻地区SLA 花巻市立湯本中学校…24

「生徒と共に考える読書環境づくり」

遠野地区SLA 遠野市立遠野西中学校…25

「学校図書館の運営について」

北上和賀地区SLA 北上市立北上北中学校…26

「読書活動の充実に向けての取り組み」

胆江地区SLA 奥州市立東水沢中学校…27

『生徒同士で本を紹介し合う取り組み』による読書意欲の醸成」

一関地区SLA一関市立大東中学校…28

「豊かな心を育む図書館教育」

陸前高田地区SLA 陸前高田市立高田第一中学校…29

「図書館教育の実態と課題」

大船渡地区SLA 大船渡市立末崎中学校…30

「図書室での全校朝読書」(読書指導領域)

釜石・大槌地区SLA 釜石市立唐丹中学校…31

「読書活動の活発化をはかり、心を育てる教育のための図書館教育の取組」

宮古地区SLA 宮古市立河南中学校…32

「視覚に訴える読書推進取組」

岩泉地区SLA 岩泉町立岩泉中学校…33

「図書館の利用者を増やすために」

久慈地区SLA 久慈市立三崎中学校…34

「読書活動の充実を目指して」

二戸地区SLA 二戸市立浄法寺中学校…35

1 学校図書館の概要

本校は、学級数30学級（特別支援学級3を含む）、児童数843名（5月13日現在）であり、登録されている蔵書数約9300冊、その他に学級文庫用の寄贈図書が多数ある。

図書館運営は、司書教諭を中心として、PTA任意団体の図書ボランティア及び図書委員会担当者と図書委員児童、本年度は学校司書が加わり、環境整備や貸出、イベント等の活動を行っている。

2 具体的実践内容

（1）「読書の記録」の活用

本校では、図書の貸出返却を卒業まで同一の個人バーコードで管理している。昨年度までは、個人の利用履歴は冊数のみの通知として、内容を通知することはしていなかった。本年度から、バーコード管理に加え、児童に個人ファイルを持たせ自分で記録を書かせる等、利用履歴を自己管理することとした。また、各学年に応じた必読図書を設け、これらを読んだ上で目標冊数を達成した児童を多読賞として「多読賞列車」に名前を掲示することにした。これにより、自分の読書の傾向をつかむことができたり、いわゆる「よい本」にふれる機会を設けたりすることにつながっている。

（2）「図書だより」「おすすめの本」特設コーナーの設置

児童に様々な図書に目を向けさせるために、季節や行事、学習関連、担当が選んだテーマ等に応じ壁新聞「図書だより」を図書室前に掲示している。関連する「おすすめの本」特設コーナーも同時に設置し、手に取りやすいよう工夫している。この他にも図書室内に別種類の「おすすめの本」コーナーを常に複数箇所設置し、全学年児童の目に触れられるよう配置している。これにより、これまで借りられる機会の少なかった図書に手を伸ばす児童の増加につながっている。

（3）読書に親しめる環境整備

書架に図書を並べるだけでなく、可動式ワゴンを新刊図書等の特設本棚として利用している。また、全書架に場所を示す名前を付けて目立つように表示したり（「中央1」「廊下側1」等）、書架を色分けしたりするなどして、低学年児童にも書架の場所を覚えられるよう配慮している。更に、室内の書架の配置や書架内の本の配置を把握できるような地図を作製し、見やすい場所に掲示している。特定の分野の図書の背表紙に色分け用の丸シールを貼るなどして返却時に戻しやすいように工夫した。

（4）図書ボランティアの方々の活動

「環境整備部」では、毎月午前1回程度、多目的室で図書の修繕作業や掲示物作りを行っている。人気の本ほど傷みやすく、何度も修繕していただいた本もある。また、図書室入口の大きな掲示板に、春夏秋冬、その月の行事などに合った掲示もしていただいている。この他に、「読み聞かせ」「貸し出し」の部があるが、感染症対策のため、残念ながら昨年度の活動は見送りとなったが、本年度はできる範囲での活動となった。

3 成果と課題

（1）成果

- ・より多くの児童へ「おすすめの本」を手にとってもらえる環境作りが成果を上げている。

（2）課題

- ・「読書の記録」を活用することのよさを実感させる機会を設け意欲付けを図ること。
- ・図書が特設コーナーから一般書架へ戻った時の周知が煩雑にならないように配慮すること。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数73名の小規模校である。図書室は、2階建て校舎の階段を上ってすぐのところにあり、低学年教室からも高学年の教室からもすぐの場所なので足を運びやすい。開館は、業間休みと昼休みで、図書委員会が、本の貸し出しや図書の整理などを行っている。また、図書支援員（週1日勤務）を中心に、季節を意識した図書室の整備や、新刊図書の設置の工夫など、児童が楽しく利用しやすい環境づくりに努めている。



2 具体的実践内容

（1）図書委員会を中心とする読書活動の推進

① 読書月間間の取り組み

毎年11月を読書月間とし、図書委員会が中心となって読書意欲の向上を図るために、『図書まつり』を開催している。内容は、多くのジャンルに親しんでもらうための『読書ビンゴ』、おすすめしたい本の『ポップ風紹介カード』の掲示などである。また『なかよし読書』として、縦割り班ごとに上学年が下学年に絵本の読み聞かせをする活動もしている。

② 多読賞の表彰

毎学期に、めやすとした冊数を超えた児童全員に、ミニ賞状を渡している。賞状を貰うことで、読書に対しての励みになっている。

③ 昼の放送での『おすすめ本』の紹介

委員会からのコーナーを利用して、図書委員が季節や行事にあった本を選び、その一部を読み聞かせしている。

（2）長期休業における読書カードの取組

長期休業中にも読書をすすめるために、『読書カード』を全校児童数分配布している。また親子読書にも取り組み、読書時間や感想交流の場面を親子で共有している。そして『親子読書カード』に感想を書き掲示している。

（3）図書ボランティアによる読み聞かせ

水曜日の月2回程度、朝学習の時間に、読み聞かせをしていただいている。児童の発達段階を考慮した本や、季節や行事に合わせた本を選んでくださり、全校児童は、リラックスして楽しんで聞ける時間である。



（4）読書環境の充実と整備

週に1回、図書支援員が来校している。教科学習における並行読書のために、学年別オスズメの本棚を作成したり、本の整理を行ったりしている。また、図書館に入って正面に新刊を設置し、本の情報を掲示するようにしている。特設としての掲示にも力を入れており、例えば、県内の作家に興味をもってもらうため、宮沢賢治や岩手出身の作家コーナーを作成している。



3 成果と課題

（1）成果：図書支援員、図書ボランティア、図書委員会の活動がうまくつながり、本に関心をもつ児童が増えてきている。

（2）課題：挿絵が多い本を選ぶ傾向にあるので、「読む」楽しさを広げる活動の工夫が必要である。

「子どもの豊かな読書習慣の形成をめざして」

八幡平地区SLA 八幡平市立寄木小学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童81名の小規模校である。図書館は1階の集会スペース（学習ひろば）と続いた造りとなっており、ゆとりをもって本に親しむ活動ができる環境にある。蔵書数は約5800冊とやや少ないが、年に2回県立図書館からの団体貸出を利用したり市立図書館から教科書関連本を随時借用したりしながら、子どもの読書活動が豊かになるよう補っている。

2 具体的実践内容

（1）全校で共通して取り組み、読書指導の充実を図ること

- ① 読書目標の設定と図書ファイル（ふり返しシート付）の活用
年間目標冊数…低学年120冊， 中学年80冊， 高学年30冊
- ② 朝読書，すきま読書，週末読書（金曜日は3冊デー）など日常的な読書の推進
- ③ 家庭読書（家庭学習カレンダーへの位置づけ）
- ④ 親子読書など家庭における読書習慣の形成の啓発（長期休業中）
- ⑤ 6年間を通しての寄木小学校100冊読書の勧め

（2）本にふれあう機会を多くし読書意欲を高めること

- ① 読書週間（図書館祭り）
図書委員会の活動の一環として開催
読書ビンゴ，読書郵便，図書クイズ，など
- ② 地域ボランティアによる読み聞かせ
毎月1回 朝読書の時間に各学級で実施
- ③ 「おはなしの風キャラバン事業」の活用
年1回，全校児童（学団毎分散）対象に実施
- ④ 図書館司書による昼の放送等を活用した定期的な本の紹介
- ⑤ 多読者の紹介と表彰，100冊読書記録証の贈呈
多読者は学期ごとに紹介し年度終わりに表彰，100冊読書記録証は6年生へ配付



（3）図書館の整備に努め，積極的な図書館利用が図られるようにすること

- ① 新刊図書や課題図書の購入，配架
- ② 図書館司書と協力した図書館の整備や掲示
- ③ 図書の保全管理と修理（図書ボランティアの協力）
- ④ 図書委員会による図書の貸出と利用指導，おすすめ本の紹介
- ⑤ 校内分館の設置（全学級）
- ⑥ 県立図書館からの図書の活用（年2回）
- ⑦ 長期休業中の開館・貸出（閉庁時を除く全ての日に開館）

（4）その他

- ① 読書感想文コンクールへの取り組み推奨
- ② 図書館便り（年3回）の発行



3 成果と課題

<成果>

学級での指導，図書・読み聞かせボランティア活動，委員会活動，図書館司書，外部機関などそれぞれの立場での活動が充実しており，かつ，連携がとれているため，子どもの望ましい読書習慣の形成に役立っている。結果として，図書館を訪れる子どもや，学習の合間に「すきま読書」をする習慣が身に付いている子どもが多くみられる。

<課題>

行事への取り組みや児童会など様々な活動が多い高学年の子どもは，低学年の子どもに比べて図書館の利用が少ない。休み時間での利用が難しい場合，教科等（国語や社会，総合的な学習など）での活用を更に推奨し，実態に合った指導の工夫をしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校 72 名の小規模校である。学校図書館は、2 階に位置しており、蔵書数は約 5,680 冊である。図書委員会を中心として、毎日昼休み時間に図書の貸し出しを行っている。図書委員会の働きかけで、図書室前廊下に季節ごとのおすすめの本を掲示したりポスターで呼びかけたりして、本に親しみをもてるよう環境整備に努めている。

2 具体的実践内容

(1) 読書目標の設定

1 年間の目標冊数（低学年 100 冊、中学年 70 冊、高学年 45 冊）を設定している。学期毎に多読賞を紹介し、学期末には目標達成者を表彰する。

(2) 親子読書

夏休みと冬休みには、親子読書カードを使って親子読書に取り組んでいる。「親子で同じ本を読み感想を話し合う。」「親子で読書タイムをもつ」「親子でおすすめの本を紹介しあう」などの取り組み方を示し、各家庭の考えに合った形で取り組んでいる。

(3) 読書月間の実施（11月）

図書委員会が企画したイベントを行う。今年度は、「読書ビンゴ」を実施。図書委員が各学年に読んでほしい本を選び、ビンゴカードを作成する。決められた期間内に読み、1 冊読むごとにスタンプをついてもらう。今年度初の企画であり、達成目標は 2 ビンゴ以上とした。児童集会では、読書ビンゴ達成者の紹介、大型絵本の読み聞かせを行った。して、図書への関心を高める取組を進めている。

(4) 学級文庫の設置

教科書の改訂に伴い、教科書で取り上げている図書を昨年度から優先的に購入し学級文庫に配架する。並行読書に取り組むやすい読書環境を目指している。次年度も継続し増やしていく。

(5) 図書ボランティアの活動

P T A 読み聞かせボランティアが月曜日の朝読書で読み聞かせを行っている。また、6 月の読書月間では、町の読み聞かせボランティア「おはなしの雫」に読み聞かせをお願いしている。図書館の環境整備については、学校図書館支援ボランティアの「しずくいし図書隊」の方々が、月 1 回程度、本の修理や本棚の整理整頓に来てくださっている。



＜大型紙芝居読み聞かせ＞



＜1 年生に読み聞かせ＞



＜お話キャラバンの方々による読み聞かせ＞



＜図書集会＞

3 成果と課題

- 11 月の読書月間「読書ビンゴ」では、本に興味をもち、児童間で本の内容について奨め合う姿もみられた。
- 普段読んだことのあることの本でも楽しみながら様々な分類・作者の本に親しむことができた。
- 高学年になるにつれて読書量が少なくなる。これまでの取り組みでもなかなか図書室を訪れることがない児童に対し、どのようにして読書への興味関心をもたせるかの手立てが今後の課題である。

「豊かな読書活動の充実を目指して」

紫波地区S L A 紫波町立佐比内小学校

1 学校図書館の概要

本校は、紫波町の東南端に位置し緑豊かな地域で、水田耕作や果樹栽培が盛んに行われている。教育に対する地域の関心は高く、地域全体で教育振興運動を展開している。

図書室は2階にあり、広々とした室内に読書用のテーブルが置かれ、昼休み時間には読書に親しむ児童も見られる。貸し出しは、毎日昼休みに図書委員が行っている。また、平成20年から、佐比内地区の方々と構成されている読書ボランティア「つくしんぼ」と学校図書コーディネーターによる読書活動に対する支援をいただいている。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員会の主な活動

① 校内読書月間（6月）

- ・POPコンクール・・・お勧めの本を選んだり、絵や文で表したりする楽しさを味わうことを目指して全校で取り組んでいる。9月の町POPコンクールにも毎年全校児童で応募している。
- ・読書ビンゴ・・・様々なジャンルの本に親しんでもらうため、ビンゴカード（低学年・高学年）を準備しビンゴを目指す。ビンゴになったら、ごほうびが貰える。
- ・低学年への読み聞かせ・・・朝読書の時間に、図書委員が紙芝居の読み聞かせを行う。

② 校内読書月間（11月）

- ・読書祭りの開催
- ・読書感想画コンクール
- ・担任外による読み聞かせ
- ・読書おみくじ（おみくじを引き、書いてあるジャンルの本を読む）

(2) 読書ボランティア「つくしんぼ」による読み聞かせ

月に1回、朝読書の時間（8：10～8：25）に今年度は1～3年生・4～6年生に分け、読み聞かせをしていただいている。季節や子どもの発達段階に応じた選書をしていただき、児童にも大変好評である。また、年に4回、地区の公民館において「おはなし会」を開催し、毎回多くの児童が参加している。

(3) 学校コーディネーターによる支援

毎週水曜日来校し、図書の専門的な知識を生かして、本の分類や配架、テーマに合った本の紹介コーナーの設置などを行っている。また、月や学期毎の読書履歴の個人データを印刷し、各学級ではそれを自分の読書について振り返る指導に役立てている。

（コロナ以前は、月に一度昼休みに、図書室で読み聞かせを行っていた。）

3 成果と課題

【成果】

- ・学級経営の中に、読書指導・図書館利用を位置づけ、年間を通して学年に応じた指導を行うことで、読書量を向上させることができた。
- ・図書ボランティア、コーディネーターの方々の取組のおかげで、読書環境の整備、読書活動の推進が継続的にできた。

【課題】

- ・委員会で様々な活動を行うことで積極的に読書をする児童が増えた。より多くの児童に興味をもってもらえるような支援が必要である。
- ・家庭での読書時間の確保。休日や長期休業になるとかなりの個人差が見られる。

「児童の積極的な読書活動の展開を目指した図書館運営」

花巻地区SLA 花巻市立石鳥谷小学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童 266 名の学校である。図書室は北校舎 2 階にあり、窓からは校庭を一望できる場所にある。普段は、朝・業間・昼休みに図書委員会の児童が貸出を行っている。さらに、担任が意図的に児童を図書室に連れて行き、本の貸出を行う以外にも、総合的な学習で調べ学習を行ったりしている。また、各教室には学級文庫をはじめ、公共図書館による移動図書館『ぼらへの』による団体貸出が行われており、本が常に児童の身近なところにある環境となっている。2 学期後半には、市内の公共図書館で活用されている「読書おもいで帳」の記載が、本校でもできるようになり、児童の利用促進につながっている。

2 具体的実践内容

(1) 図書ボランティアによる読み聞かせ活動

図書ボランティアの方には、毎月 1 回教室で読み聞かせを行っていただいている。朝学習の 10 分間であるが、学年に応じた本を選定してくれ、児童も関心をもって聞いている。

(2) 委員会活動

図書委員会では、本の貸出・返却の日常の活動の他に、年 2 回読書月間の取組みを行っている。読書推進のために、読書ビンゴや、読み聞かせ（コロナ対策のため放送）、委員会が選定したおすすめの本の紹介を行った。今年度は 2 回目の読書月間の際に、目標読破冊数の達成率 80% を掲げ、学級への呼びかけを行い、多くの児童が読破賞の賞状を受け取ることができた。さらに、学期ごとと年間分の多読賞の表彰も行い、読書への意欲を高めている。

(3) 石鳥谷地区教育振興推進協議会との連携

協議会では、読書推進活動の一環として、冬季休業中に「読書標語」「親子読書」の取組みを行っている。保護者への学校アンケートの結果から、「家庭で読書をしている」という項目が低く、家庭への啓発活動の役割を担っている。



【読書ビンゴカード】
ビンゴになったら、本を 2 冊借りることができます。



【読書の木】
読書月間中、目標読破冊数を達成したら、名前を書いたシールを貼ります。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・委員会活動を中心に、児童が主体的に図書に親しもうとする意欲をもたせることができた。
- ・公共図書館や教育振興推進協議会、図書ボランティアとの連携により、読書活動の推進を図ることができた。

(2) 課題

- ・読書に親しむ児童が増加したものの、読まれている本が学年に合っていないという実態が見られた。学年に応じた図書に親しませる手立てを工夫していきたい。
- ・図書館担当が専任でないため、図書館の環境作りが思うようにできないのが現状である。

「読書の習慣化を図る学校図書館教育の工夫」

遠野地区S L A 遠野市立遠野小学校

1 学校図書館の概要

本校は全校児童 243 名の中規模校で、2 階（低学年用）と 3 階（高学年用）に学校図書館があり、すべてデータベース化されている。休み時間に図書委員会の児童がバーコードの読み取りを行うことで本の貸し出しを行っており、学校図書館の本は常時 2 冊借りることができるになっている。

P T A 図書委員会や図書ボランティア「たんぽぽ」の方々が来校し、図書の管理やディスプレイの工夫、季節毎の掲示物制作などを行い、読書環境を整えるサポートをしてくださっている。



2 具体的実践内容

(1) 学校・学級の実践

- ① 学級文庫の常設 : 担任が 30~50 冊準備し 2 か月毎に入れ替え
- ② 週末読書 : 全学年共通の音読カードの活用
- ③ 読書月間 : 年 2 回 (6 月, 11 月)
- ④ 読書目標冊数 (高学年: ページ数) 達成者調査 : 年 3 回 (6 月, 9 月, 2 月) 実施 ※11 月現在 96% 達成
- ⑤ 多読者表彰 : 年度末 (2 月)
- ⑥ 特設コーナーの設置 : 岩手の作者 (宮澤賢治), 図書館担当による「おすすめの本」教科書に掲載されている本, 遠野物語関連 (柏葉幸子), 震災関連など, 各コーナーを設けて, 児童の関心を高めるようにしている。
- ⑦ 図書館運営 P C ソフト利用の工夫 : 2 階と 3 階の学校図書館の本のデータを統合させ, どちらの図書館からでも本の貸し借りができるようになった。貸し出し回数が多い「人気ベスト 5」の本や, 未返却児童の把握も行っている。

(2) 児童会図書委員会の実践

- ① 図書祭り : 6 月の読書月間には各分野の本を読むことを勧める「ビンゴゲーム」や「図書館クイズ」を行っている。11 月の読書月間には, 図書委員が読み聞かせを実施している。
- ② 図書館の整理整頓 : 図書委員 1 人 1 人が責任を持って活動できるようにするため, 本棚毎に責任者を決めている。
- ③ 多読者の紹介・表彰



(3) 家庭との連携

- ① テレない読書 : 6 月と 11 月は「家族で照れずに, テレビを消して, 共通の本を読んで交流する。」という取り組みを行っている。授業参観日や期末個別面談日に廊下掲示し, 家族の交流の様子を紹介している。

(4) P T A 図書委員会, 図書ボランティア「たんぽぽ」との連携

- ① P T A 図書委員会による楽しい掲示とディスプレイの工夫
- ② 図書ボランティア「たんぽぽ」による月ごとの掲示・本の修繕及び本の読み聞かせ

3 成果と課題

(1) 成果

「本を手に取り読みたくなる環境整備」や「探している本が見つけやすいレイアウト」等の工夫により, 読書習慣は育っている。

(2) 課題

本校は学区内に「市立図書館」と「こども本の森 遠野」がある。この素晴らしい環境を生かし, 各施設の活用を啓発していくこと。



「子どもたちの読書意欲向上を目指して」

北上和賀地区 SLA 北上市立笠松小学校

1 学校図書館の概要

笠松小学校は、全校児童83名の小規模校である。現在は、新校舎建設中のため仮設校舎で生活している。教室棟から遠い管理棟の3階に図書室があるため、恵まれた環境とはいえないが、図書ボランティアの協力を得て環境整備に努めたり、家庭と連携して読書活動の活性化を図ったりしながら、子どもたちの読書意欲向上を目指し、様々な取り組みを行っている。図書委員会の活動も活発で、子どもたちの声を生かしながら図書館運営を進めている。

2 具体的実践内容

(1) 図書ボランティアとの連携

①読み聞かせ

朝学習の時間に低学年・中学年・高学年の順に読み聞かせをしている。それぞれの学年に合う本を選んでいただき、どの学年の児童も興味をもって絵本に親しんでいる。

②季節の掲示

毎月、図書ボランティアの方々に手作りの掲示物を届けていただき図書室内に掲示している。図書室前の廊下や階段にも、これまでに作った掲示物を飾り環境整備に努めている。



(2) 家庭との連携

夏休みには「読書感想画」、冬休みには「親子読書」に取り組んでいる。家庭では、週末読書にも取り組んでいるが、長期休みの取り組みを通して、心に残る本について感想をもち、表現する機会としている。

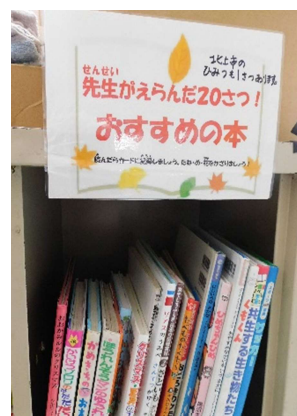
(3) 図書委員会の活動

①笠読野原の掲示（学級おすすめの本の設置）

担任の先生おすすめの本20冊を配架し、目標冊数を達成すると「笠読野原」に各学年の花が咲くという取り組みである。3冊読むと種のカード、5冊読むと芽のカード、10冊読むと花のカードがもらえる仕組みで、必読図書として年間を通して取り組んでいる。

②図書イベント

読書ビンゴやクイズなど、図書委員会の児童が季節のイベントを計画し、全校が楽しめるよう工夫しながら取り組みを行っている。



3 成果と課題

<成果>

- ・様々な取り組みを通して、「低学年80冊・中学年50冊・高学年30冊」という年間の目標を多くの児童が達成し、読書を楽しむことができた。

<課題>

- ・読書量や本を読む習慣には個人差があるため、校内でできるだけ読書の時間を確保していきたい。
- ・新校舎移転によって、また新たな環境整備が必要であるが、今後も図書ボランティアの協力を得ながら進めていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は全校児童 359 名の中規模校である。本校では従来から読書活動の推進に力を入れており、「金小まなびフェスト」には各学年の目標冊数を提示するなど、学校と家庭が協働して読書に親しむ環境づくりに取り組んでいる。また、町立図書館が隣接しており、児童の読書への関心・意欲を高めるために町立図書館と連携した図書館運営を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 学校図書館支援活動

月 1 回町立図書館から支援員が来校し、様々な支援を行っている。

ア 環境づくり

季節に合った本の設置や、分類に合わせて書架の整理をしたり本の修理を行ったりする。また、町立図書館の開館日や企画のお知らせなどの掲示物の張替えなども行っている。

イ 蔵書（新規購入図書も含め）の受け入れ処理

学校で購入した図書や寄贈された図書の受付登録を町立図書館で行い、データベース化している。また、ラベルの貼り付けや本のカバーかけも行っている。

ウ 図書委員会への支援

委員会活動時に本の修理体験を行った。支援員の方に修理の仕方を教えていただき、手際良く作業を進めることができた。児童は、これからの委員会活動でもぜひ続けていきたいという思いをもつことができた。

(2) 学習での連携

ア 第 2 学年の生活科「まちが大すきたんけんたい」

町立図書館を探検し、図書館の施設・設備やより多くの人たちに利用してもらえるための工夫等について、担当者から説明を聞いたりインタビューしたりするなどして調べることができた。

イ 第 4 学年の国語科「図書館の達人になろう」

必要な本を探しやすくする工夫について、まず学校の図書ホールで調べ、それをもとに次は町立図書館で調べて、確認したり比較したりすることができた。

ウ 第 5 学年の国語科「図書館を使いこなそう」

まず学校の図書ホールで本の分類や整理の仕方について調べ、次にそのことが町立図書館ではどうなっているのかを調べることができた。

(3) 読書推進の連携

ア 学級文庫の設置

学級名義の貸し出しカードを活用する。期間は 2 カ月である。児童は図書館から興味のある本を借り、学級文庫として読める時に気軽に読んでいる。

イ 読書感想画展

町立図書館が主催し、町内各学校で取組み、出品した読書感想画は町立図書館内に展示される。

3 成果と課題

(1) 成果

ア 専門的な視点での環境整備を行っていただくことによって、充実した学習や読書をする環境が整備された。また、教職員の図書環境整備への負担軽減となった。

イ 町立図書館との連携を図ることによって、学習活動の内容を深めることができた。

ウ 読書推進に向けての取組を行うことによって、読書への関心を高めることができた。

(2) 課題

ア 町立図書館との連携について、年間の具体的な活動を見通して計画し、より充実した図書館運営が行えるようにしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は児童数54名の小規模校である。本校の図書館は非常に狭く蔵書もそれほど多いとは言えないが、頻繁に図書館に通い読書に親しんでいる児童も多い。月に1回、一関市立大東図書館の巡回図書「なぎさ号」が来校する。



児童も多い。月に1回、一関市立大東図書館の巡回図書「なぎさ号」が来校する。子ども達は全員個人の貸し出しカードを



もっており、市立図書館の本を借りている。また、学級の児童が移動図書館に乗り込み、各学級の分館図書を選んでいる。学校の図書館の蔵書の少なさを補い、常に新しい本に触れることができている。

2 具体的実践内容

(1) 読書意欲を高める図書委員会を中心とした取組

11月に図書祭りを実施した。11月の児童会目標「本をたくさん読もう」に合わせ、図書委員会が企画・運営した。当日は読書普及員の読み聞かせや多読賞の表彰の他、本の題名クイズやキャラクタークイズ、ストーリークイズなど充実した内容で、子ども達は楽しいひと時を過ごした。本に関するアンケート結果の掲示もあり、「この本を読みたい」という意識をもたせる取組として効果があった。



(2) 読書普及員の活用

本校には読書普及員が配置されている。週に1度来校し図書館の環境整備や新刊図書の受け付け、図書委員会の児童の補助を行っている。また、図書祭りのお話広場のコーナーでは、絵本の読み聞かせを行った。大東図書館にも勤務しているので、職員が必要としている情報を実際の本につなぐ重要な役割も担っている。



3 成果と課題

(1) 成果

学校図書館が狭く蔵書が決して多くない現状にも関わらず、町の巡回図書を最大限活用することで、子ども達の興味に即した読書活動が実施できている。児童の読書意欲を高めるために、児童会活動や読書普及員の活用を効果的に実施することができた。小規模校にとって読書普及員の配置は大変重要である。

(2) 課題

長期休業中の親子家庭読書の取組は実施しているが、家庭での読書時間の充実に向けた取組が必要である。普段から親子で読書を楽しむ習慣の確立に向けて手立てを考えていく必要がある。

また、読書量の個人差への対応についても手立てを講じていかなければならない。

「本に親しみ、進んで読書をする児童を育てるために」

陸前高田地区 S L A 陸前高田市立矢作小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 19 名の小規模校である。学校図書館は校舎 2 階にあり、蔵書数 6,722 冊である。

学校図書館の他に、各教室や廊下に学年に合った国語教材の関連本を配架したり、市の移動図書館「はまゆり号」から本を借りて配架したりしている。また、個人や団体から毎年多くの図書を寄贈していただいている。委員会による貸し出しは昼休みに行い、週末は 2 冊の貸し出しをし、家庭での読書の啓発を図っている。

2 具体的実践内容

(1) 読書目標の設定・掲示

学年ごとに目標冊数（低学年 80 冊，中学年 60 冊，高学年 50 冊）を設定し、目標冊数を達成した児童の「読書の達人カード」（写真入り）と簡単な本の紹介カードを廊下に掲示している。毎学期、学年の中で、一番多く本を読んだ児童には多読賞を贈っている。

(2) 親子読書の推進

夏休みには親子読書カードを使って親子読書に取り組んでいる。「親が子どもに読み聞かせをする。」「子どもが親に読み聞かせをする。」「親と子どもで交代しながら読む。」などのやり方を示し、親子それぞれが感想を書き、交流する機会としている。

(3) 図書館ボランティアによる活動

月に 2 度、地域の図書ボランティア「ささ舟さん」による読み聞かせを行っている。いろいろな本のジャンルの読書につながるよい機会となり、児童は楽しみにしている。

(4) 図書委員会の活動

児童朝会などで、新しい本やおすすめの本の紹介を行っている。また、秋に開催する図書祭りでは、大型絵本の読み聞かせや図書館探偵（本探しクイズ）、子どもたちが喜ぶ読みやすいしおり（簡易リーディングトラッカー）の作成などを行っている。図書を購入する際には図書委員の意見も反映している。

(5) 図書教育支援員による活動

月に 2 度ほど来校し、図書の専門的な知識を生かして、本の分類や配架、テーマにあった本の紹介、選書の補助などをしていただいている。また、図書祭りのときには、本の並び方の紹介や 3～6 年生を対象にビブリオバトルを行い、本校児童の読書意欲を高めることに貢献している。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・読み聞かせや、おすすめの本の紹介、ビブリオバトルを行うことで、その本に興味をわき、図書室に借りにくる児童が増えた。
- ・読書の達人カードを掲示することにより、読書意欲につながった。

〈課題〉

- ・読書量には、まだ個人差がある。図書室へなかなか足が向かない児童への本に興味をもつような手立てや環境作りの工夫が必要である。



「図書委員会を中心とした読書活動の推進」

大船渡地区 SLA 大船渡市立盛小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数109名、9学級（特別支援学級3学級を含む）の学校である。図書室は、1階の多目的ホール前に設置されており、どの教室からも利用しやすい環境にある。本を読むことを好む児童が多い。

2 学期ごとの図書委員会による取り組み

児童会活動の中に図書委員会が位置づけられている。日常の活動は、本の貸し出しを行っている。また、月ごとに活動内容を計画し、「全校児童がたくさん本を読んで欲しい」という願いをもとに、活動を行っている。活動は、月1回から2回の委員会の活動時間に行っている。

（1）1学期

○4月—図書館におけるマナーについて

- ・児童朝会で、実演を交えながら図書館のマナーについて知らせる。
- ・昼の放送では、本の借りるときの注意事項を知らせる。

○5月—新刊図書の紹介

- ・図書委員会が選書をした新刊図書を児童朝会で知らせる。
- ・お薦め本の詳細（本のあらすじや薦める理由を記入したもの）を、図書室の前に掲示する。

○6月—読書月間の取り組み

- ・朝活動の時間、図書委員会が各学級に出向いて、読み聞かせを行う。読んだ後には、読んだ本に関するクイズを出題する。
- ・読書ポイントラリーの実施。ポイントカードが、満点になると図書委員会の作成した「2冊券」（2冊借りられる券）または「しおり」がもらえる。

○7月—1学期多読賞の紹介

- ・多読賞（学年の目標冊数をクリアすること）達成者に賞状を配布すると共に図書室前に氏名を掲示する。

（2）2学期

○9月—新刊図書の紹介

- ・新刊図書を児童朝会で知らせる。
- ・お薦め本の詳細（あらすじやお薦め理由を記入したもの）を、図書室前に掲示する。

○10月一読書ビンゴの取り組み

- ・図書分類番号の最初の数字が書かれた、ビンゴカードに取り組む。
- ・児童に様々なジャンルの図書を読ませたい目的で行う。
- ・図書分類番号についての説明や分類番号の図書については、児童会朝会時に、図書委員会から説明を行う。
- ・カードが、満点になると図書委員会の作成した「2冊券」(2冊借りられる券)または「しおり」がもらえる。

○11月一読書月間の取り組み

- ・「読書貯金」に取り組む。読書貯金カードが満点になると図書委員会の作成した「2冊券」(2冊借りられる券)または「しおり」がもらえる。
- ・「物語の世界のメニュー」を給食で再現してもらい「夢のコラボレーション給食」を行う。当日の献立についての解説と図書を、登校時に児童用昇降口に掲示する。

○12月ー2学期多読賞の紹介

- ・多読賞(学年の目標冊数をクリアすること)達成者に賞状を配布すると共に図書室前に氏名を掲示する。

(3)3学期

○2月一読書ポイントラリーの実施

- ・ポイントカードが、満点になると図書委員会の作成した「2冊券」(2冊借りられる券)または「しおり」がもらえる。

○3月ー3学期多読賞の紹介

- ・多読賞(学年の目標冊数をクリアすること)達成者に賞状を配布すると共に図書室前に掲示する。

3 成果と課題

○学期ごとの、貸し出し目標冊数をほとんどの児童がクリアしている。図書委員会の活動や働きかけが、読書啓発に影響していると思われる。

○「読書ビンゴの取り組み」については、1年生でも、図書分類番号を意識して図書を借りようとしている姿が見受けられた。「200番の本はどこですか？」等と尋ねる児童が多い。

○限られた時間内での委員会活動であるが、委員は、一生懸命に活動している。選書を行うこと、図書分類番号を説明すること、そして、お薦めの図書を準備すること等を通して、委員自身の読書に関する意識が高くなっている。

○次年度は、今年度の活動内容に更に工夫・改善を加え、委員会活動を行なっていきたい。

1 学校図書館の概要

本校図書館は、2階建て校舎の2階部分に位置し、全校児童39人が利用している。1棟のため、どの教室からも近い。特に図書館に隣接しているのが調べ学習の多い5・6年複式学級になっている。毎年様々な支援をいただき、蔵書冊数は7,000冊超になる。図書館のほかに学級文庫として各教室に50冊ずつ分架し利用している。学校図書館・学級文庫・しおかぜ号(市立図書館の移動図書館)が読書施設環境の3本柱になっている。また、図書ボランティアが週1日来校し、図書室の本の展示などの環境整備を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 全校での取り組み

① 読書時間の確保

毎週月曜日、金曜日の朝活動の時間15分間を読書の時間とし、全校で読書に取り組んでいる。本年度は図書祭りの一環として10月に連続5日間の朝読書の時間を設けた。

② 読書の目標冊数の設定

低・中・高の学年ごとに年間の目標冊数を設定し、学期ごとに多読賞の表彰を行い、読書活動の活性化を図っている。多くの児童が目標冊数を意識して本を借りている。

③ 月1回の「しおかぜ号」による巡回図書を利用し、様々な本に触れることができるようにしている。

④ 夏休みや冬休みには、親子で本に親しむ活動「親子読書」を実施している。

(2) 図書委員会による読書啓蒙活動

① 6月に「読み聞かせ」を実施した。担当を決め、各学年に分かれての読み聞かせを行った。また、おすすめ図書のメッセージを書いて図書室の本棚に掲示したり、ポスターに書いたりして校内に掲示した。高学年の読書指導推進の活動「本の宅急便」を行った。

② 10月に、図書委員会による児童会行事として図書祭りを行った。今年度は一堂に会して行うことができなかったが、校内放送を使い、紙芝居や読書クイズ、読書イラストコンクール、図書貸出スタンプラリー、しおりの作成など、委員会の子どもの主体的な活動を促しながら、取り組むことができた。

(3) 図書ボランティアの活動

毎週火曜日に図書ボランティアとして地域の方々が来校している。

① 読み聞かせ

例年図書ボランティアが、各教室を訪問して読み聞かせを行っていたが、本年度は行うことができなかった。

③ 展示作業

図書ボランティアによる「おすすめの本」を紹介するコーナーがあり、季節や本に合わせて趣向を凝らした展示をしている。視覚的にも読書に親しむ環境が整っていることで、紹介されている本は、子どもが進んで手にとっている。

③ 本の受け入れ

購入図書や寄贈図書の受け入れ時には、カバー掛けやラベル張りなどを行っている。そのおかげで、受け入れ図書を素早く子どもたちに提供することができている。

3 成果と課題

(1) 成果

委員会の児童や、図書ボランティアによる継続的な活動によって、子どもたちの生活の中に読書が定着している。

(2) 課題

どの学年も読書範囲を広げるために、様々なジャンルの本に親しめるような取り組みを工夫していく必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数256名、各学年2学級に特別支援2学級の小学校である。図書室は、3階建て校舎の3階に位置し、東に面しており、蔵書数は約11000冊である。そのほか、移動図書館を活用し、定期的に本を入れ替え、児童がすぐに本を読む環境づくりをしている。

2 具体的実践内容

(1) 全校朝読書

毎週火曜日の朝、8時15分からの10分間を全校朝読書の時間としている。じっくり読書に取り組んだり、読書の幅を広げたりする時間として効果的に活用できている。

(2) 読書環境の充実と整備

児童会の活動として、図書館の本棚整理や本の紹介を行っている。また、図書支援員と図書ボランティアにより、図書館の季節ごとの工夫を凝らした掲示や新聞を活用した掲示を行っており、明るく、親しみやすい環境となっている。

(3) 読書月間の取組

11月を読書月間と定め、図書委員会主催の『読書まつり』の活動を行い、読書意欲の向上を図っている。読書ビンゴ、読書マラソンなど、様々な本に親しめるような取組をした。達成者へは、手作りのしおりをプレゼントしたり、多読達成カードを掲示したりして、多くの児童が図書館へ足を運ぶきっかけとなった。



多読達成カードを貼る児童

(4) 家庭と協力した読書の取組

保護者アンケートにより、家庭での読書離れが分かった。そのため、長期休業中や読書月間には、親子読書に取り組んでいる。夏休みには、3～6学年全員に、全国学校図書館協議会の集団テキストの中から学年ごとに選んだ本を渡し、親子で宮沢賢治等の名作に触れた。感想を話し合うなど、貴重な機会となった。

(5) 図書ボランティアによる読み聞かせ

月に1～2回、朝読書の時間に、図書ボランティアの方々が学級に入り、読み聞かせを行っている。また、1年に2回行う「おはなし会」では、人形劇やペープサートなどで本の楽しさを味わう場となった。



「おはなし会」の様子

3 成果と課題

○図書委員会による読書月間の取組、図書支援員や図書ボランティアの活動等により、様々な分野の本に触れたり、たくさんの本を読む習慣が身についたり主体的に読書に親しむ姿が育った。

●家庭での読書離れがみられるため、今後も読書に親しむ機会を作ると共に、じっくりと本に向き合えるような工夫をしていく必要がある。

●学校図書室の本棚は、備え付けで古く、移動ができない。また、本を置くスペースに限りがあり、本の分類や設置及び環境整備に困難を生じている。家庭での読書活動に力を入れるため、現本棚の改修や移動本棚の設置等、図書室の整備改善が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童166人の小規模校である。校舎のほぼ中央に図書室があり、どの学年からも利用しやすい位置にある。蔵書数は約8300冊と豊富であり、毎年新刊図書も50冊から100冊程度入り、児童のニーズに合った蔵書も増やすことができている。数多くの蔵書の中から読みたい本が探せるように、環境整備や新刊図書の紹介なども行っている。

また、今年度は国語教材の関連図書の精選を行い、各学級に必読書として整備・配架した。

2 具体的活動内容

(1) 年間読書目標冊数設定と読書記録カードの活用

年間の読書目標冊数を、低学年70冊、中学年50冊、高学年30冊と設定し、読書終了時には記録カードに記録するようにしている。学年末に、目標達成者に達成賞を渡している。

(2) 朝読書の実施

毎週月曜日の朝学習の時間15分を朝読書の時間として、全校で読書活動を行っている。

(3) 親子読書

長期休業中に、親子で読書に親しむ時間をもつことをねらいとして、取組を行っている。カードに記入してもらいファイルしたものを自由研究・作品展示会の際に一緒に展示し、交流している。

(4) 図書委員会による活動

- ・図書委員によるお薦めの本を、給食時間に放送で紹介している。
- ・わくわく読書として、図書委員が低学年に読み聞かせを行っている。
- ・11月を読書祭り月間と位置付け、図書委員会による読み聞かせ、先生方による読み聞かせ、読書クイズ、読書ビンゴなどの取組を行っている。

(5) 町立図書館との連携

- ・団体貸し出し図書「かもしか号」を利用し、様々な図書に触れるようにしている。
- ・町立図書館主催の「読書マラソン」に毎年取り組み、読書の幅を広げている。

(6) 図書ボランティアの協力

- ・保護者や地域の協力者を募り、図書室の本の修理や環境整備などをしていただいている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・図書に関係した組織を生かして様々な活動を行い、読書意欲の向上につなげることができた。
- ・いつでもどこでも誰でも読書できるように、学校全体の読書環境を整えることができた。

(2) 課題

- ・まず「読書すること」を目標に読書冊数に目を向けた活動を行ってきたが、どんな本をどのように読書するのか、児童の発達段階や生活実態に合わせた内容の本を吟味した上で、家庭の協力も得ながら取組をしていく必要がある。



図書委員による児童への読み聞かせ



校長先生による児童への読み聞かせ



図書委員会主催の「読書まつり」の掲示



図書貸出作業の様子

「読書習慣を育てる図書館教育の工夫」

田野畑地区 SLA 田野畑村立田野畑小学校

1 学校図書の概要

本校は、児童数 131 名、全 8 学級(うち特別支援学級2)の小規模校である。図書室は児童昇降口の正面に位置し、蔵書数は約 7,200 冊である。図書の貸出は図書委員会を中心に、始業前・中休み・昼休みの時間に行っている。また月に1度、田野畑村教育委員会が運営する移動図書「はまなす号」を利用し、各学年 20 冊から 30 冊の本を借りて学級文庫を設置し、様々なジャンルの本に触れさせる機会としている。

2 具体的実践内容

(1)読書目標の設定

学年ごとに目標冊数(低学年 70 冊、中学年 40 冊、高学年 30 冊以上)を設定し、年度末には、目標冊数を超えた児童に「多読賞」、おすすめの本を全部読んだ児童には「完読賞」の表彰をしている。

(2)朝読書

毎日8時 15 分から8時 25 分まで、読書の時間を設定している。児童は、時間前に読みたい本を選んで席に着き、静かな 10 分間を過ごすことで、落ち着いて1日のスタートを切ることができている。

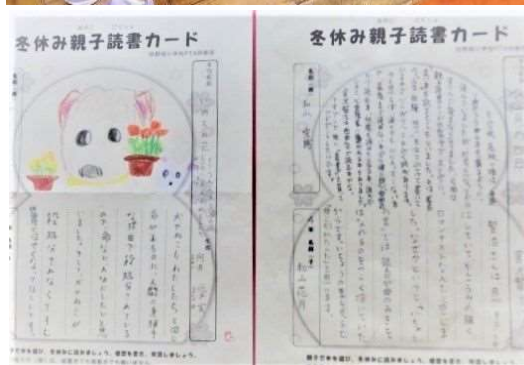
(3)読み聞かせボランティアの実施

毎年 10 月に地域の読書ボランティア「ぐるんぱ」を招き、全学年を対象に読み聞かせを実施している。また、図書委員会の活動としても、1年生を対象に読み聞かせを行っている。様々なジャンルの本と出会うことで、児童の読書への興味・関心が高まっている。



(4)PTA の取り組み親子読書の実施

冬休み中の読書を推進する目的で「親子読書」に取り組んでいる。親子で同じ本を読み、絵日記風の感想を書いて交流し合う機会としている。



3 成果と課題

○朝読書はもちろんのこと、隙間時間にも進んで読書する児童が増えたという声が担任から聞かれるようになった。また、同じ本を何度も読んだり、1冊の本を友達と読んだりするなど、読書への意欲がみられるようになった。

○朝読書に取り組むことで、児童は落ち着いた気持ちで一日をスタートできている。

●読書するのは朝読書だけという児童も見られ、読書量に個人差があることから、読書意欲を喚起するための工夫が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童30人、1年生と2年生がそれぞれ1学級ずつで、3・4年生と5・6年生はそれぞれ複式学級に、特別支援2学級の小規模学校である。蔵書数は約4000冊だが、古い本も目立ち始めたので担当を中心に新しい本を選書している。各教室や廊下には季節ごとに本に係る掲示がされ、本への親しみが増すような環境整備を意識している。

また、学びフェストに年間目標読書冊数を設定したり、長期休業中に親子読書の取組を設定したりするなど、学校と家庭が一体となった読書啓蒙活動が続けている。

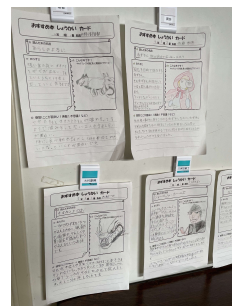
2 具体的実践内容

(1) 読書目標冊数の設定

読書記録カードに読み終わった本の題名と日にちを記録する。児童が取り組む学びフェストに項目を起し、目標冊数を設定する。

1・2年生	110冊	3・4年生	60冊
5・6年生	40冊		

多読者は2学期末の図書集会で学年ごとに表彰される。



(2) 親子読書の推進

長期休業中に親子で本を読み、感想を交流し合う。親子読書カードを準備し、長期休業明けに紹介し掲示する。

(3) ブックタイム（朝読書）の取組

朝会のない火曜日の朝、読み聞かせのない金曜日の朝に設定。自分が選んだ本を準備して読む。担任が勧める本を読んだり、小学生新聞を読んだりすることもある。

(4) 読み聞かせボランティアの実施

月に1～2回、ボランティア団体（森のうさぎ）による読み聞かせを実施。教室の後ろで椅子に座って円くなり、読み聞かせを聞く。1年に1度、校長や副校長も含めた教職員による読み聞かせの時間も設定している。

(5) 図書委員会の活動の工夫

特に読書に取り組んでほしい時期に読書月間を設定し、読書ラリー（読んだ冊数に合わせてスタンプ）や読書ビンゴ（様々なジャンルを読むことができるように）など児童が楽しみながら読書を進められるような取組を工夫している。

2学期末には、読み聞かせボランティア（森のうさぎ）とコラボし、図書集会を企画・運営している。クイズや人形劇、紙芝居、多読賞の表彰など内容も工夫しながら実施している。全校児童もこの行事を楽しみにしている。



3 成果と課題

(1) 成果

○学びフェストに具体的に目標冊数を設定し、読書記録カードに記入していくことで自分の読書進捗状況が可視化され、意欲へとつながっていた。

(2) 課題

●冊数は目標を達成しているが、家庭での読書の時間の確保につながっていない。さらに家庭との連携を図り、読書の習慣を身に付けさせたい。

1 学校図書館の概要

本校は児童数83名，8学級からなる。学校図書館は校舎の1階に位置しており，学校司書や町立図書館の協力を得ながら，館内整備や読書活動推進のための取り組みを行っている。

1日2回，業間休みと昼休みに図書の貸し出しを行っており，低学年を中心に多くの児童が来館し，本を借りたり，読んだりしている。

2 具体的実践内容

(1) 町立図書館職員，学校司書による環境整備

学校司書が週3回，町立図書館司書が月1回来校し，図書館内の掲示物の作成や新刊図書の配架，蔵書の管理等を行っている。季節感のある館内環境に整えられ，季節の掲示は利用する児童の楽しみになっている。

(2) 図書委員会の活動

年間を通して「図書委員のおすすめの本」コーナーを設け，本の紹介をしている。来館した児童たちは，普段読み慣れないジャンルの本でも，目につきやすいところにあるため，手に取って読んでいるようである。また，11月には図書委員会の企画で「図書館まつり」を行った。スタンプカードやくじ引き，先生方のおすすめの本コーナーの設置，図書クイズなどを行い，期間中は普段よりも多くの児童が図書館を利用していた。

(3) 学校司書による読み聞かせ

月1回程，学校司書による読み聞かせを行った。昼休み時間に自由参加の実施であったが，多くの児童が参加し，楽しんでいた。自分で読んだことのある本でも，新鮮な気持ちで楽しめたようである。



(4) 新聞活用の取り組み

「新聞切り抜きニュース」として，新聞に触れる取り組みを行った。これは図書館の新聞コーナーに配架している，2社3種類の新聞から気になった記事を選んで切り抜き，感想を記入するものである。10月に取り組みを呼び掛け，11月の図書館まつり期間には，図書館前に掲示した。普段新聞を読み慣れない児童も，写真を見て記事を選ぶなどして取り組んでいた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・学校司書，町立図書館司書，図書委員会が様々な取組を行ったことで，館内環境が整備され，企画にはたくさんの児童が参加していた。これらの取り組みを行うことで，児童が読書に親しみ，進んで学校図書館を利用することにつながった。
- ・図書館まつりの期間には，学校司書による読み聞かせも企画の一つにするなど，図書委員会と学校司書との連携を図ることができた。

(2) 課題

- ・新聞の活用については，現在使用している「新聞切り抜きニュース」の形式だと，低学年には取り組みにくいとの声があった。形式を工夫し，どの学年も無理なく取り組めるようにしていきたい。
- ・特に高学年で，進んで読書をする児童とそうでない児童の差が大きくなっている。新刊図書を選ぶ際，児童のリクエストを聞くなどして，読みたい本がある学校図書館を目指していきたい。

「 図書館運営について 」

盛岡地区SLA 盛岡市立玉山中学校

1 学校図書館の概要

本校は、学級数 2（1・2 年複式 1，3 年 1）生徒数 16 名で、図書館の蔵書は約 5,500 冊です。図書館運営は図書館担当と学習自治委員会が中心となって行っています。

図書館は校舎 2 階の、普通教室から近い場所にあり、読書活動や学習の場ともなっています。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の取り組み

原則通年で、朝の時間に朝読書に取り組んでいます。教室には、渋民図書館の月一回配本される巡回図書がおかれているので、自分の好きな本を読んだり、巡回図書を利用して読んだりしています。

(2) 委員会活動

本校は全校生徒 16 名のため、委員会活動は 2 つです。そのうち図書関係にかかわっているのは、「学習自治委員会」です。この委員会は、学習関係の活動と図書関係の活動の 2 つの活動を担っています。委員会は、各学級 1～4 名の生徒で構成され、以下の活動に取り組んでいます。

① 本の貸し出し

本の貸し出し・返却を図書当番が行っています。開館日は当番が責任を持って活動しています。図書館の開館時間は昼休み時間です。利用者が固定化している実態があります。

② 図書館便りの発行

委員が図書館にある本の中から「おすすめの本」を選んで紹介する図書館便りを発行しています。委員が順番に紹介文を書いています。

③ おすすめコーナー設置

本に興味を持ってもらうために、「自治委員によるおすすめコーナー」を設置しています。目につきやすい場所に、ポップを作り配架しています。長期休業前の一斉貸し出しでよく利用されています。

(3) 図書担当としての取り組み

前期は、夏休み前の一斉貸し出しのために、図書のジャンルのバランスを意識して図書の購入・入荷をしています。後期は生徒の希望図書も考慮して、購入計画を立てています。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・委員会活動は、少人数ながらも担当の仕事を自主的によく行っていて、図書の貸し出し、図書の紹介などができました。
- ・長期休業前の図書選びでは、どの生徒も自分の興味に合う本を真剣に選ぶ姿がありました。

〈課題〉

- ・図書館には、古い本がたくさんあり、生徒の興味関心を考えて利用のないものは準備室の棚へ一時保管しています。今後図書が増えた時の配架の工夫が必要です。
- ・図書のバーコードシステムが、各校で導入されています。本校では導入作業にかかる人員と時間において問題があり、現時点では導入は難しいと思われます。

1 学校図書館の概要

全校生徒37名の本校は、いわて沼宮内駅より西方5kmの地点に位置し、一方井地区を一望する高台に校舎がある。「小学生の頃から図書室が好きだった」とか、「移動図書館（おおぞら号）の巡回貸し出しを楽しみにしていた」という生徒が多く、本好きの生徒が多い。しかし、中学入学とともに短くなった昼休みや様々な活動の影響、インターネットの普及などもあり、徐々に図書館離れの傾向にある。そのことを改善するため、本校では「全校生徒の教育活動に必要な資料や図書を収集し、生徒の学習効率を高めるとともに、読書の経験を深め、豊かな人間性を養う」という目標を掲げ、多くの本にふれさせる読書活動をすすめた。



【岩手町立図書館 移動図書おおぞら号】

2 具体的実践内容

(1) 業者との連携（全校生徒による「選書」）

今年度も「100%全校生徒による選書」を実施した。業者の協力により、中学生にお勧めの本や新刊図書を実際にもってきてもらい、約300冊の中から「図書室にあったらいいな」「これはぜひ読んでみたい」と思う本を選び、購入した。時間はひと学年1時間ずつ、読書指導の領域で国語の時間を割り当てた。生徒は熱心に本選びに取り組んだ。本を購入後、図書委員会が「新しい本の紹介コーナー」をつくって紹介し、全校生徒にお知らせする活動を行った。興味をもち、本を手にとって読む生徒が増えている。



【図書館の新しい本の紹介コーナー】

(2) 町読書週間の取り組み

11月の町読書週間に合わせて、次の取り組みを行い、生徒に読書の楽しさを実感させ、いろいろなジャンルの本に興味をもってもらおう活動を行った。

- ① ポスターの掲示、取り組みのお知らせ（町配布の資料と本校で作成したプリントを使用）
- ② 給食の献立（サバの塩焼き）に合わせて、絵本の読み聞かせ（絵本『やきざかなののろい』）を全校で一斉に行った。

※給食中、パワーポイントで作成したプレゼンテーションを学級に設置してあるICT機器を使ってスクリーンに映し出し、全員が視聴する形で

- ③ ②の絵本給食の取り組みに合わせて、「食に関する本」を10冊程度購入し、図書館に「おすすめの本」コーナーをつくって紹介した。
- ④ 一方井地区中学生「読書週間の取り組み」（教育振興運動の一環）で、ノーメディアで読書に取り組むように、家庭と連携して生徒に呼びかけ、読書の時間を調査した。

新しい本に興味をもつ生徒が増え、図書の貸し出し冊数も少しずつ増加している。

3 成果と課題

<成果>

- ・生徒自身が選書する取り組みは生徒の興味・関心を引き出し、読書推進のきっかけとなった。また、絵本の読み聞かせ（絵本給食）は、多くの生徒が興味をもって視聴していた。新しいジャンルの本に興味を持たせる取り組みとしてたいへん効果的だった。

<課題>

- ・生徒数の減少により、今年度途中から生徒会組織としての図書委員会がなくなった。現在、委員の生徒がいなくても、自分で手続きをして本を借りる新しいやり方で本の貸し出しをしている。今後、月に1～2回程度来ていただいている図書支援員と連携して、図書館の環境整備を行い、本の紹介や読書の呼びかけなどの活動をさらにすすめていきたい。

「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)

八幡平地区S L A 八幡平市立西根中学校

1 学校図書館の概要

本校は、全学年3学級、特別支援2学級の計11学級である。蔵書数は約4500冊。図書室は2階3学年フロアの奥に位置しており、生徒の利用頻度はあまり高くないのが現状である。本校の図書館教育の指導計画では「図書室利用の推進」、「読書習慣の形成に向けた諸活動の推進」、「蔵書の充実・整備・管理」、「委員会活動の活発化」の4つを基本方針に掲げ、生徒の読書活動の充実を目指している。

2 具体的実践内容

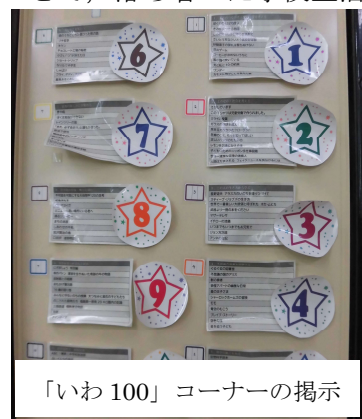
(1) 朝読書の実施

8時15分から8時25分の10分間、朝読書を実施している。朝読書用の図書は、各自準備することになっているため自宅から持参する生徒もいるが、図書室に足を運び、読みたい図書を借りる生徒も多くいる。その際には、おもに図書室の一角に設けている「いわ100」コーナーの図書を薦め、生徒が様々なジャンルの図書に興味を持てるようにしている。また、図書委員会の活動として「移動文庫」を行っており、各学級の図書委員が級友に薦めたい図書を図書室から5冊ずつ移動し、各教室に置いている。

全校朝会や定期テスト当日を除き毎朝行っているこの朝読書を通して、読書活動の充実や読書の習慣化、図書室利用の促進を図っている。さらに、1日の生活を読書活動から始めることで、落ち着いた学校生活を送ることに役立っている。

(2) 学校図書館司書との連携

毎週月曜日に学校図書館司書が来校し、蔵書の整備・管理や選書を行っている。選書は、教科学習において並行読書ができるよう、教科書に掲載されている図書を中心に選んでいる。また、図書館担当教諭と学校図書館司書が連携し、デザイン性の高い装丁のものや学習・部活動など中学校生活をテーマにしたものを多く揃えることで、図書室に来た生徒が興味を持って図書を手に取り、充実した読書活動ができるよう努めている。



「いわ100」コーナーの掲示

(3) 専門委員会との連携

図書室の利用は、毎日昼休みの25分間である。おもに図書委員が貸出・返却業務を行っている。また、全校朝会や昼の校内放送で図書委員が図書室でのマナーを呼びかけ、落ち着いた雰囲気を読書を楽しめるよう努めている。委員の中には、自身が読んだ図書の中から友人に薦めたいものを積極的に紹介したり、新刊図書の紹介文を書いたりする生徒もおり、全校の読書活動の活発化に一役買っている。さらに、「移動文庫」の本を1か月毎に入れ替えることで、頻繁に図書室を利用できない生徒でも、新刊図書や「いわ100」など様々なジャンルの図書を手に取ることができるよう工夫している。



新刊図書紹介

3 成果と課題

(1) 成果

- ・朝読書開始の時間を確認することで、全校生徒が落ち着いて朝読書に取り組むことができている。
- ・学校図書館司書と連携し選書を工夫したことや、図書委員による「移動文庫」の活動を通し、生徒が興味を持って図書を手に取るようになってきた。
- ・図書委員によるマナーの呼びかけで図書室の環境が改善したことにより、図書室を利用する生徒が前年度より増加した。

(2) 課題

- ・部活動などで朝読書以外に読書する時間を持たない生徒も多いため、まずは朝読書で様々なジャンルの図書に出会えるよう学校図書館司書や専門委員会と連携を図り、全校生徒の読書活動の充実を目指したい。
- ・蔵書を充実させることや「いわ100」、新刊図書の紹介などを引き続き行い、全校生徒の読書習慣の形成につなげたい。

1. 学校図書館の概要

本校は紫波町の東部に位置しており、生徒数は97名、来年度からは小学校5校が統合され、小中一貫校となる。今年度新校舎が完成し、2学期からは新校舎で生活している。図書室は1階の西側に位置し、隣のパソコンルームとはガラスの折り戸を開けるとワンルームになり、メディアセンターとなっている。蔵書数は、新校舎への引っ越しを機に整理し、現在8082冊である。全図書をバーコードで管理しており、図書委員が、昼休みに図書の貸し出しを行っている。週に一度学校図書コーディネーターの方が来校し、図書室の環境整備活動をして下さっており、生徒の利用しやすい、明るい図書室となっている。

2. 具体的実践内容

(1) 朝読書の取組

朝読書の時間を8:20～8:30の10分間とし、各学級の図書委員が運営している。学級担任も時間までに教室に行き生徒と共に読書をする。朝読書が習慣化されており、全学級落ち着いた状況で取り組んでいる。また、学期毎に英語で書かれた本を読む週間や、人権作文コンクールの優秀作品を読む週間など期間限定の取り組みも行っている。

(2) POPコンクール・読書感想文コンクールへの取組

読書に親しんだり、読書の幅を広げたりできるように、紫波町のPOPコンクールや読書感想文コンクールに全校で取り組んでいる。POP作品は、文化祭で展示したり、選ばれた作品は図書室に展示したりしている。読書感想文もグループで読み合うなど読書活動の活性化を狙って取り組んでいる。

(3) 読書まつり

県の読書週間に合わせ、校内で「読書まつり」という読書推進月間を設けている。図書委員会の取り組みとし、期間中に本を10冊読破、または、図書委員が指定した本棚の本を5冊読破したら、読書の旅カード（読後の感想カード）を図書室に持ってきて、くじを引くというもの。お楽しみイベント的な要素が強いが、その期間はいつも以上に来室者が多い。

(4) ビブリオバトル

国語の授業で、ビブリオバトルを行っている。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」のキャッチフレーズの通り、友達の紹介する本に興味をもち、熱意をもって本を進める友達の新しい面を知る良い機会となった。生徒たちが読書を楽しんでいる様子が伝わってきた。

3. 成果と課題

〈成果〉

- ・図書室の環境整備やリクエストを生かした図書の紹介などにより、学校図書館を利用する生徒が増えてきている。
- ・生徒たちの本に関する関心も高く、新刊図書や話題の作品を積極的に読んでいる。朝読書の他にも余暇を生かして自主的に読書を進めるなど、意欲的に取り組んでいる。

〈課題〉

- ・一冊の本との出会いから、関連図書を読む、同じ作家の本を読むなど、発展的な読書に繋がれるよう、本の紹介を工夫し読書活動の支援をしていきたい。
- ・小中一貫校となることから図書委員会の活動も見直し、読書推進が目に見えるような企画を計画していきたい。
- ・図書室における新聞の活用や、データの活用についても、検討する必要がある。

1 学校図書館の概要

本校は、全校126名の学校である。図書室は2階東側にあり1.5教室分の広さである。

今年度、学校運営協議会が組織され、地域コーディネーターが配置されたことで、生徒の思いやニーズを把握してもらい、図書館の蔵書整理と生徒の学習と情報操作の意欲につながるよう多くのアドバイスを反映し設備整備実践に協力していただいた。

2 具体的実践内容

(1) 図書ボランティア活

今年度、図書室のデジタル化による管理を導入するにあたり、図書館の環境整備、バーコード等のシステム設定等を行った。

一昨年までの図書室は、冊数も多く、新刊図書の配架に困難な面があった。、分類もあまりなされおらず、環境的には雑然としていた。また、本の貸出業務・整理も限られた時間内、使用する生徒も固定化していた。そこで、図書室の蔵書のバーコード化による管理で図書室業務・管理の効率化、併せて生徒が楽しみにし、利用しやすい図書室にする環境整備を目標とした。

図書ボランティアさんには、これらの願いを聞いていただき、図書室の環境整備、蔵書の整理、本のコンピューターへの入力、バーコードの印刷・貼り付け等の膨大な業務をに努めていただいた。この、膨大な既存図書の選定と破棄、環境整備をしていただきながら、さらに読書に親しむ環境や読書の習慣に係る取組をしていただくことで、生徒が積極的に図書館に通えるようになった。蔵書を、新刊、季節ごと等の各分類、ポップや掲示・寄贈本の整理等、机、椅子、本棚等の配置を根本から変えること等で図書室全体が明るくなり、ボランティアによる掲示で、どのような本があるのかすぐにわかりやすくなり、手に取ってしまう環境整備ができ、魅力ある学校図書館に様変わりし始めている。

整備後の図書室



3 成果と課題

(1) 成 果

地域コーディネータさんと学校図書館の在り方について、共に議論し、要望を把握して頂き、環境の改善などを具体的に調整、実践していただいた。そのことで、学校としても教員の負担を大幅に軽減することができた。地域の教育力を学校教育に活用することで、地域にある教育資源をさらに知ることができたことなど大変有効でした。また、地域の子どもを地域で育むとの意識の向上にもつながり、地域住民の参加を得ながら体験活動等へと結びつけていく協力体制を築くことができた。

(2) 課 題

バーコード化に伴い、次は図書委員会の活動を連動し、生徒の手に委ねる場を増やしていきたい。生徒の読書、学習、情報活用力を育む主体的な場として機能させていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数113名、7クラス(うち特別支援学級2)の学校である。図書室は校舎1階にあり、入り口付近の廊下には大きな書架があり、主に新刊図書を配架することで、生徒の興味関心をひく工夫をしている。広さは、普通教室とほぼ同じであり、限られた閲覧スペースではあるが、学習・図書委員や本好きの生徒が穏やかに過ごす場所となっている。

また、本校は2階にも若干の書架があり、主に市立図書館から貸借している本を置き、定期的に入れ替え、生徒の目にふれるようにしている。

図書室利用に関して、利用時間がほぼ昼休み時間に限られること、場所の狭さから図書室への入りづらさを感じられること、生徒の興味関心に広く応えられる蔵書となっていないことなどが改善点として挙げられる。

2 具体的実践内容

全体的にみると読書が好きな生徒が多く、朝読書でもかなり集中して読みふけっている様子が見られる。しかし、読書の他にも、学習、合唱、部活動など、生徒が取り組むべき活動は多くあり、十分な読書時間が確保できていないのが現状である。

そこで、特別な時間を設けるのではなく、普段の生活の中で読書について考える時間や読書環境づくりができないか試みている。

(1)授業の中で

国語科の授業において、話し合いのテーマとして「図書室利用の課題点と今後の改善策」を取り上げ、全員で考える活動を行った。

スタンプラリーや新刊図書のアピールポスター作成など、実際に提案された具体的改善策は、学習・図書委員会で更に検討し、可能であれば活動に取り入れる方向である。

また、タブレットパソコンを使用して、図書室に置くおススメの本を検索し、コメントを書く活動にも取り組んだ。

(2)生徒の手による読書環境づくり

本校の図書室は、日本十進分類法に基づいた配架にはなっておらず、現在徐々に修正を加えているところである。一度に整理するとなると大変な作業になるため、学習・図書委員の手を借りながら、少しずつ作業を進めている。

一方で、コーナーづくりのため、「いわ100」の本を揃えている。その本は「いわ100」を紹介するブックレットをもとに、学習・図書委員がスタンプラリー方式で各書架から探してきたものである。委員会の活動時間も限られているため、内容や時間を吟味してよりよい活動ができるよう工夫した。

3 成果と課題

図書室改善の案を考えたことで、図書室の蔵書に興味を持ち、実際に図書室に足を運ぶ生徒が見られた。また、購入図書に関しても、積極的に提案してくれる生徒が増えたことは大きな変化である。

まだ一部の生徒での活動にとどまっており、全体の読書意欲の向上や読書時間の拡大には至っていない。より目に見える形で、多くの生徒を巻き込んだ活動を検討していく必要がある。

「学校図書館の運営について」

北上和賀地区 SLA 北上市立北上北中学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒 133 名、8 学級（うち特別支援学級 2）の小規模校である。図書室は 1 階奥にあり、蔵書冊数はおよそ 8,500 冊である。中でも理数系の寄贈本が多く充実している。開館時間は昼休みの 20 分程度であり、利用者は多いとはいえないが、密にならずにのんびりと過ごしたり、本に触れたりすることができる場所として機能している。

2 具体的実践内容

(1) 全校での朝読書の取り組み

- ① 毎朝 8:15～8:30 の 15 分間を朝読書の時間と位置づけている。
- ② 1 年を通して全校生徒が集中して読書をし、落ち着いた雰囲気の中で 1 日のスタートをきっている。

(2) 「学級文庫」の設置

- ① 図書委員が、毎月さまざまなジャンルの本を学級人数分セレクトし配架。
- ② 各教室にあることで誰もが手に取りやすく、本に興味をもつ生徒が増えた。

(3) 図書委員会の活動

- ① 月曜日～金曜日の昼休み、図書館の開館と本の貸し出し及び図書の整頓。
- ② 「読みたい本アンケート」や各学級多読者ランキングの集計を行い通信で発表。
- ③ 委員が交代で「お薦めの図書コーナー」（図書室の入り口）に興味を引くような本の配架を行う。

(4) 教科学習との連携

- ① 国語科において読書感想文の書き方指導等で活用。
- ② 総合的学習の時間等での図書館利用を担任や各教科担当と連携して実施。

(5) 図書の選書と配架

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 生徒の委員会活動として役割を与えることで、積極的に呼びかけ等を行った。
- ② 配架では、背表紙だけではなく表紙を見せる「顔出し」を多くしたことによって、図書室全体の雰囲気が明るくなり、立ち止まって本を手にとってもらえるようになり、貸し出し率も上がった。

(2) 課題

- ① 訪れたくなる、本が読みたくなる図書室を目指した活動を展開する。
- ② 古くなりほとんど読まれていない本や傷んだ本などの除籍作業を行い、生徒に還元できる新しい図書の配架に力を入れたい。



1 学校図書館の概要

本校は生徒数352名、学級数は14（特別支援学級2含む）の中規模校である。校舎2階に位置している図書館は、校庭を一望できる南側に窓があるため明るく、室内も広い。ただし、学級と昇降口を結ぶ生徒の動線上にはないため、行こうと思わなければ通らない場所である。朝、昼休み、長期休業中の貸し出しを行っている。図書委員が当番制で貸し出しや返却作業を行っている。蔵書数は約12,000冊である。常勤の学校司書が1名配置されている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書

毎朝、8時20分から8時30分までの10分間を朝読書の時間とし、各自で用意した本を読んでいる。各学級の図書委員が運営している。

(2) 委員会活動

各学級1名の生徒で構成されており、主に以下の活動に取り組んでいる。

① ブックリスト作成

7月は教職員、12月は生徒によるおすすめ本をまとめ、ブックリストにして全校生徒に配布している。

② おすすめ本のポスターやPOPの作成

委員おすすめの本のポスターやPOPを作成し、昇降口に掲示する。また、紹介したおすすめ本を図書室に展示している。



③ 昼の放送の活用

毎週月曜日の昼の放送で市の教育委員会で作成した「奥州市の中高生にオススメするブックリスト」の中から1冊選び、今週のおすすめ本として紹介している。

(3) 読み聞かせボランティアによる「読み聞かせ」や「ブックトーク」

市の読書ボランティアによる「読み聞かせ」を学級毎に年2回行っている。また、年1回、放課後にボランティアの講師を招き「ブックトーク」を行っている。



(4) 関係機関との連携

長期休業前や校内読書週間期間にあわせて奥州市立図書館から本を借りて展示・貸し出しを行っている。

また、本年度は国際子ども図書館（国立国会図書館）から中学生向けの科学セットを借用し、閲覧できるようにした。

3 成果と課題

<成果>

昼の放送の活用やおすすめ本ポスターを作成するなどの図書委員会の活動により、本に関心を持つ生徒が増えている。また、関係機関との連携により、蔵書の不足している部分を補うことができ、読書意欲の向上につながっている。

<課題>

読書習慣のついている生徒とそうでない生徒の差が開いている。また、読む本に偏りがあるので、様々な分野の本に触れさせる工夫をしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校の規模は各学年2学級、生徒数180名である。図書館は校舎一階北廊下オープンスペースに設けられている。蔵書数は8,800冊。令和5年度の大原中学校、興田中学校との合併に向けて、週1日勤務の読書普及員の協力のもと蔵書の整理を進めている。

2 具体的実践内容

(1) 生徒の実態

昨年10月に行った「岩手県子どもの読書状況調査」の本校の調査結果は、1か月に読んだ本の平均冊数が3.8冊、その内、学校図書館の本を利用したのは0.6冊だった。朝読書における生徒の読書傾向をみると、ライトノベルやマンガ、アニメのノベライズ、映画やドラマの原作といったジャンルに偏りがちである。読書体験を豊かにしていくためには、様々なジャンルの本に触れさせるとともに、図書館利用を推進していくことが必要であるが、図書館が利用できる昼休みは体育館利用などの活動が優先され、生徒の足が図書館に向かないのが実態である。

(2) 国語科における生徒同士で本を紹介し合う取り組み

① ビブリオバトルの実施

平成28年度「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」(文部科学省)によると、中学生が本を読むきっかけとして多いのは「友達がおすすめの本を教えてくれたり貸したりしてくれたりすること」である。そこで、夏休み前に、国語の読書単元の時間を使ってビブリオバトルを行った。これまで読んだことがないジャンルの本に興味をもった生徒は多かったが、その後、その本を読んだという生徒は各学級6名程度だった。読まなかった理由は「なんていう本か忘れてしまった」「どうしたら手に入るか考えなかった」などであった。

② 繰り返し見られる「動画による書籍紹介ライブラリー」

近頃、出版業界で「tiktok 売れ」なる言葉が話題となっている。動画アプリ上に投稿された30秒程度の書籍紹介動画がきっかけとなり、その書籍がベストセラーになる現象である。前出の調査においても、ネット上での宣伝や広告を参考にして本を購入している中・高生が多いことが示されている。短くキャッチーに繰り返されるフレーズが目と耳に残るようである。そこで、前回のビブリオバトルの反省を踏まえ、冬休み明けに、タブレットを利用した書籍紹介動画の撮影、上映によるビブリオバトルを開催することとした。尚、紹介する本は学校の図書館にあるものに限定した。この方法の利点は次の通りである。

- ・通常のビブリオバトルより短時間で多くの本の紹介を交流できる。
- ・動画が保存されているので、いつでも何回でも見直せる。書籍紹介ライブラリーとして学級、学年を越えて共有できる。
- ・学校図書館の本限定なので、どの本もすぐに手に取れる。



生徒たちは動画撮影・編集に長けており、想像以上に素早く動画を完成させた。また、お互いの動画を繰り返し見直すなど、興味を持って取り組むことができた。

3 成果と課題

生徒同士で本を紹介し合う取り組みの後、ほぼ全員がアンケートに「読書に対する興味や意欲が高まった」と答えた。この結果が、図書館に足を運びこれまで手にしなかったような本を読んでもという行動にどれだけつながるかは今のところ未知数だ。今回は国語の時間を使って実践したが、今後は委員会活動や総合的な学習の時間と連動し、学校全体で本を紹介し合う雰囲気を醸成していければ考える。

「豊かな心を育む図書館教育」

陸前高田地区SLA 陸前高田市立高田第一中学校

1 学校図書館の概要

新校舎は平成18年に現在の場所に建てられ、平成30年に第一中学校と気仙中学校が統合し、高田第一中学校として開校する。現在、生徒数は212名で普通学級7、特別支援学級3を加えて10学級である。蔵書数は統合により15,789冊で、必要数の9,600冊に対して十分な冊数を抱えている。震災後、ロータリークラブ等の寄贈により教科書に関連する本も十分に備えられている。



2 具体的実践内容

「読書に親しみ、自ら教養を高めていく生徒、心豊かな生徒の育成」を目標に掲げ、主体的な読書を進めている。本年度は「環境を整え、本に親しむ生徒の育成」を図ることを重点に取り組んでいる。

(1) 図書委員会活動の活発化

① 朝読書の推進

・朝の15分間の読書活動を委員会活動に位置づけ、図書委員の呼びかけで開始し、学級毎の自主的な取り組みになっている。

② 読書標語コンクール、読書感想文コンクールへの参加

③ 図書委員による本の選書購入

・図書委員を交えて本の選書や購入を行っている。また、購入の希望アンケートを全校から募り、生徒のニーズに応じた本を備えた。



【図書委員による選書】

(2) 学習センターとしての環境作り

① 各教科、特別活動、総合的な学習での本の利用

② 「防災活動」に関する本の展示や「職業体験学習」に備えた貸し出し

③ 国語科による活動の推進として主題をもった感想文や紹介文の作成

④ 学級文庫の設置と「いわ100の活用」

⑤ 計画的な廃棄作業や書庫の整備や環境作り



【朝読書】

3 成果と課題

【成果】・落ち着いた読書の環境や空間作りを心がけ、新刊コーナーをはじめとして、効果的に本の紹介ができた。また、居心地の良い空間として昼休みの憩いの場所になり、図書室を訪れる生徒が増えた。

・「図書館便り」での読書案内や委員会活動としてのポップ作りやペナント作成、季節の飾り付けなどを行い、読書に親しみやすい雰囲気を作ることができた。さらに全校に呼びかけて「読書標語コンクール」に応募することができ、委員会活動の活発化が図られた。



【課題】・読書の面白さを感じるために、さまざまな分野の本に触れさせる必要がある。また、読書の他にも新聞記事の紹介など、文字に触れる機会を多く取り入れる。

・学級や学年でのブックトークや地域の図書館との連携を図り、本を読むという習慣をつけていくことが大切である。



【図書室の装飾】

1. 学校図書館の概要

- (1) 全校生徒数 67 名、学級数 4 学級（特別支援学級を含む）
- (2) 図書室は二階に設置されている。図書室に面した廊下には新刊図書を配架し、一目でわかるようにしている。図書館内には郷土に根ざした文学のコーナーや宮沢賢治に関連した書籍を配置している。また、「いわ 100」専用の本棚を設置している。

2. 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

- 全校朝会時を除き、8 時 15 分から 8 時 30 分まで全校で朝読書を行っている。8 時 10 分に係が呼びかけを行い静かな読書の時間が構築されている。
- 図書館から借りた本、学級文庫の他に持参した本で朝読書を行っている。
- 移動図書館かもしれない号から各学級に 30 冊の本を学級文庫として貸し出していただき朝読書に活用している。

(2) 委員会活動

- 委員会活動では昼休みに委員会が図書の貸し出しを行っている。
- 新刊図書のアンケートを委員会を通して行い、生徒の要望に応じた図書を購入している。

(3) 新刊図書の購入

- 新潮文庫の『中学生に読んでほしい 30 冊』を参考に、生徒の興味を引く本や話題の本を購入している。

(4) 蔵書管理

- 図書の貸し出しと返却はすべてバーコードリーダーで行っている。データ化された蔵書管理がなされている。
- 図書ボランティアに年に数回来校いただき、図書の受け入れ処理や台帳整理、本の修繕などをしてもらっている。

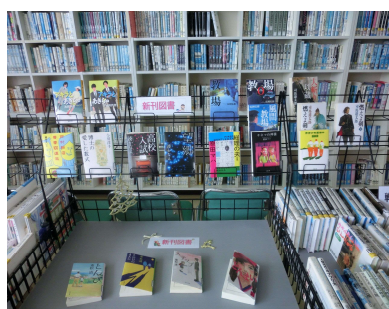
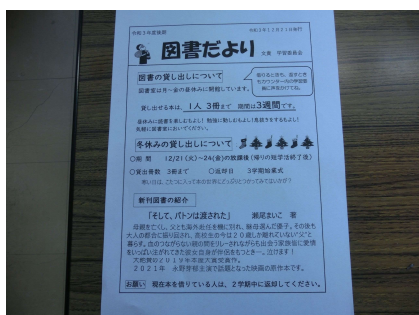
3. 成果と課題

(1) 成果

- 市の図書館との連携や、地域の人材を活用した図書館の環境整備が行われている。
- 朝読書を活用し、少しでも本に触れる機会を作ることができた。

(2) 課題

- 本を読む生徒はいるが、図書館を利用する生徒は一部に限られている。生徒がたくさん足を運びたくなる居心地のよい雰囲気の図書館づくりをしなければならない。図書の配置や工夫、POP等を作成して本を手に取りやすい図書館を目指していく。



「図書室での全校朝読書」（読書指導領域）

釜石・大槌地区 S L A 釜石市立唐丹中学校

1 学校図書館の概要

本校は小中併設校であり、図書室も校舎の一室に小中共用で設置されている。半分の場所に中学生用の書物を配架し利用している。文化委員会や担当教員が、書物を手に取って読みやすい状態にして、生徒の読書への意欲を喚起している。蔵書数は、震災後多くの寄贈本が寄せられたこともあり、およそ7500冊である。

2 具体的実践内容

（1）図書室での全校朝読書

ねらい ①読書の推進

②始業前に落ち着いた雰囲気を作り、学校生活へのスムーズな移行をねらう

方 法 始業前8：15～8：25の10分間を活用して、朝読書を実施している。

各自読みたい本を準備して取り組んでいる。図書室に全校生徒が一堂に会して行い、教諭1名も一緒に読書に親しんでいる。朝読書前に貸し出しも行っており、昼の開館時間に忙しい生徒も利用しやすいように工夫している。

（2）読書のすすめ

委員会活動を通して

- ・朝読書前や昼休み時に図書室を開け、貸し出しなどを行っている。
- ・長期休みの前には、課題図書を紹介や読書感想文にふさわしい本などを紹介し、休期中用の本の貸し出しを行っている。
- ・委員が、おすすめ本の紹介プリントを作り、生徒の目につく場所に掲示し、読書の推進を図っている。新刊本のお知らせも廊下に貼り出し読書の勧めを行っている。

国語の授業を通して

- ・課題を与えて読書に取り組みせ、内容や感想を1分間でスピーチする活動を行った。1回目は「自分の好きな本」、2回目は「いわ100」から、3回目は将来になりたい職業をみすえて選んだ「なるには本」から、4回目は「自分が選んだSDGsの課題」からというふうに行った。
- ・長期休みで読む本にテーマを与えて読書記録を書かせた。テーマは、①自由読書②自分の得意教科を伸ばすための読書③苦手教科に興味を向ける読書の3冊とした。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・始業前に読書をすることで、落ち着いた態度で授業に臨んでいる。
 - ・本を読む習慣ができ、休憩時間などにも読書する生徒が出てきた。
 - ・図書陳列の工夫が生徒の読書への意欲を刺激し手に取って読む生徒が増えた。
 - ・国語科で意図的に読書に取り組みせ、本を読む楽しさを体感させることができた。
- また、スピーチをするための下準備に意欲を持って臨む生徒が増えた。

〈課題〉

- ・委員会活動を活発にし、より多くの生徒に昼休みの図書室利用をすすめることや貸出活動の充実をめざす必要があった。
- ・生徒間で読んでいる本を互いに紹介し合う掲示物を作ることや先生方のお勧め本などの紹介も取り入れてもっと読書への意欲を喚起すべきであった。

1 学校図書館の概要

本校の図書館教育は、学校教育目標において目指す生徒像である「健康な生徒 心豊かな生徒 自ら学ぶ生徒」を育成するため、学校図書館の整備・充実に努めながら、生徒たちの読書意欲の向上を図っている。図書館教育指導の担当職員を中心に、学校図書支援員、生徒会の図書委員会などにより、様々な趣向を凝らしながら学校図書館を運営している。

今年度行われた「令和3年度岩手県子どもの読書状況調査」の質問項目を、進路対策活動を行っている3年生を除く1・2年生に対し調査したところ、次のような結果がわかった。1カ月の平均読書冊数については、1年生は5.1冊、2年生は4.9冊であった。昨年の県調査の中学生の平均冊数と比較してみるとほぼ同様の数値であった。そのうち学校図書館を利用した本の冊数については、1・2年生ともに1.1冊であった。この数値については昨年の県平均と比較してみると低い数値となっている。本の入手方法については、ほとんどの生徒は自分で購入した本を読んでいるようであった。この結果が悪いものとは言えないが、「学校図書館の利用率の向上」を図ることで、生徒の読書意欲をさらに向上させるものと考え、策を講じることとした。また、それと同時に教育課程の中で「読書の機会」を位置づけ、読書活動の推進を行ってきたい。

2 具体的実践内容

①「読書の機会」の位置づけ

ア 朝読書（8：15～8：25）

毎朝の「朝読書」の時間を設けている。どの生徒も静かに読書を楽しむ時間となっている。この朝読書の時間のみが読書の機会となっている生徒が多い。



②「学校図書館の利用率の向上」のため

ア 廊下ディスプレイ

図書館前廊下に、学校図書支援員さんに図書紹介のコーナーを作って頂いている。話題の本や新入荷の本を紹介している。週替わりのクイズもあり、生徒たちに好評である。



イ 出張図書館

校舎1階のマルチホールの壁面のへこみを利用し、「すき間文庫」と銘打って、出張図書館のコーナーを設けた。本校は3階に図書館があるため、足が向かない生徒もいるため、様々な場所で読書意欲を喚起するきっかけを作っている。



ウ 職員図書館

長期休業中に学校図書支援員の方に選書して頂いた本を置くコーナーを設けた。たくさんの先生に図書館の本に親しんでいただくことができた。



3 成果と課題

様々な趣向を凝らすことで、学校図書館を利用する生徒が増加し、昼休みには、たくさんの生徒が図書館に行って読書を楽しむ様子が見られるようになった。課題としては、朝読書の時間が行事等により確保できないことが多いことである。年間通じて確保できるよう計画を見直していきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒 90 名である。図書スペースは校舎 2 階中央部にあり、蔵書は約 4800 冊である。図書の貸出は、学習委員の生徒が行っている。今年度は、『いわ 100』に掲載されている本や、生徒の希望に沿った本を購入した。

2 具体的実践内容

(1) 学習委員会による活動

ア 読書冊数目標の設定

今年度は、年間 12 冊以上（目安は 1 学期 4 冊、2 学期 5 冊、3 学期 3 冊）を目標とした。学期末にはアンケートを実施し、読書冊数を確認した。

イ 出張図書

各学級の学習委員が毎月 10 冊、図書スペースから本を選び学級文庫として置いた。朝読書の時間に学級文庫の本を読んでいる生徒が多く見られた。

ウ 読書の実

本を読み終えたら、図書スペースに掲示されている、各学級の『読書の木』にシールを貼り付ける。「自宅や図書館の本」「図書スペースの本」「図書スペースで読み終えた本」によって、色の異なるシールを貼ることで、生徒の読書傾向をつかむことができた。

エ おすすめ本紹介

1 学期は「先生方のおすすめ本紹介」、2 学期は「全校生徒のおすすめ本紹介」を行った。生徒のおすすめ本紹介カードは『いわ 100』に見立てた冊子にして配布した。

(2) おすすめ本紹介コーナー

図書スペース前に、おすすめ本紹介コーナーを設けている。休み時間などに、そこで本を開き、『読書の実』を貼る生徒が多数見られた。

(3) 岩泉町立図書館の「読書マラソン」に合わせた企画

今年度は全校生徒でエントリーし、完走賞（4 か月で 10 冊）を目指して取り組んでいる。学級毎に定期的にコメントカード記入の時間を設け、生徒の名前と読んだ本のタイトルを階段に掲示している。



3 成果と課題

成果

掲示、紹介された本を手にとって読む生徒が増えたことから、視覚に訴えた取組は有効だったと感じる。

課題

学校教育目標でもある心豊かな生徒の育成のため、学校以外での読書習慣も身に付けさせたい。学習委員会など生徒主導によるノーメディアデー（火曜日）の『親子読書』等、家庭と連携した読書取組も考えていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒20名の小規模校である。図書室は校舎東側の3階にあり、利用しやすい環境にあるとはいえない。また、蔵書数は約2,900冊と少ない。

開館は水曜日と金曜日の週2日、昼休みのみである。そのため、利用者は本好きの限られた生徒になりがちである。

多くの学校で取り組まれている朝読書を本校でも毎朝8:20～8:30に設定して実施しているが、学校図書館の本を読んでいる生徒より、自宅から持参した本を読んでいる生徒の方が多い。

2 具体的実践内容

図書館を利用する生徒を増やすこと、図書館の本を手にする生徒を増やすことを目標に、以下のことに取り組んだ。

(1) 図書館以外の部屋に本を配置

生徒に気軽に本に触れてもらえるように、「心や体に関する本」を保健室に、「宇宙や生き物に関する本」を理科室に、「現代アートに関わる本や画集等」を美術室に配置した。

(2) マンガコーナーの設置

以前から、部活動に関係するマンガや人間ドラマを描いたようなマンガを配置していたが、ジャンルの枠を取り払い、話題となっているマンガや生徒、職員からリクエストのあったマンガを配置するようにした。今年度は80冊を購入した。

(3) 図書広報委員会の活動

通常の本の貸し出し、整理という活動のほかに、毎月「図書広報委員お薦めの本」のカードを作り、掲示している。また、「本をたくさん読んだ人ランキング」に取り組み、図書室の本を借りた冊数の多い生徒を年度末に表彰している。

(4) 配架の工夫

本校では、図書を、「各教科に関する本」、「本屋大賞ノミネート」「SDGsに関する本」「部活動に関する本」など、細かくジャンルに分け、アルファベットで分類して配架している。



【保健室の図書コーナー】



【マンガコーナー】

3 成果と課題

・マンガを読むことを目的に来館する生徒が増えた。それに伴い、マンガ以外の本を手にする生徒も見られ、朝読書での図書館の本の利用率も若干上がった。

・授業前や授業後に理科室、美術室の本を手にする生徒の姿が見られた。一方、保健室の図書コーナーはその存在を知らない生徒が多く、宣伝不足であった。今後、理科室、美術室から図書館へ足を向けさせる取り組みを工夫したい。

・配架の難しいジャンルの本もあるため、生徒が探しやすい配架になっているか検証し、工夫していく必要がある。



【配架の工夫】

1 学校図書館の概要

本校の生徒数は80名である。そのうち11名が図書委員を務めている。図書室利用者は少なく、購入希望を取っても、少数の生徒からの希望しかない。図書室は昇降口のすぐ隣にあり出入りしやすい環境にはあるので、本の紹介等に工夫を持たせ、利用者を増やしたいと考えている。また、月2回来校する図書館支援員の協力を得、充実した読書活動を目指しているところである。

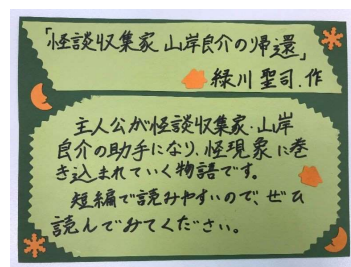
2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

全校朝会や校内定期テスト前、文化祭前の合唱練習等を除き、毎朝15分間の朝読書を行っている。自分が読みたい本を読み、落ち着いた雰囲気でのスタートにつながっている。

(2) 図書委員会の活動

より多くの生徒に本を読んでほしいという思いで、例年「図書だより」や昼の放送を活用したり、ポップ作りをしたり、お勧めの本の感想カードを廊下掲示したりして本の紹介を行ってきた。また、今年度は、図書委員のアイデアで、「図書まつり（本を借りに来た生徒に栞をプレゼントするという企画）」を立ち上げ、利用者を増やした。



(3) 図書館支援員との連携

選書の協力を得たり、本の紹介の仕方や配架のアドバイスをいただいたりしている。また、二戸市立図書館の管理方法を教えていただくなど、充実した読書活動につながるよう取組を行っている。



(4) 巡回図書を活用

月1回来校する移動図書館の本もお借りし、たくさんの本に触れられる機会を設けている。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・図書室の中に入らずとも生徒の目に触れるよう、図書室前廊下の棚に本を置いたり、お勧めの本の感想カードを廊下掲示したりしたことにより、本を手にする生徒が増えた。
- ・図書委員企画の「図書まつり」で、本を借りる生徒が増えた。

(2) 課題

- ・これまで以上に、「読書センター」としての機能と、「学習・情報センター」としての機能を果たせる図書室経営ができるよう、選書・配架・紹介の仕方等を吟味していく必要がある。

令和3年度
学校図書館の活用にかかる
実践事例集

令和4年3月2日発行

岩手県学校図書館協議会

〒020-0851 盛岡市向中野二丁目39番27号
(盛岡市立向中野小学校内)

TEL 019-635-8510

FAX 019-635-8512

E-mail info@iwate-sla.jp